

UW-TU:AOS Symposium on Natural Disaster Management に参加しました (2018/2/23)

テーマ：国際連携、東日本大震災、公衆衛生、災害時のトイレ問題
場所：ワシントン大学（米国・シアトル）

University of Washington-Tohoku University: Academic Open Space (UW-TU:AOS) Thrust-3 の活動の一環として、2018年2月23日(金)に、ワシントン大学において、Symposium on Natural Disaster Management ~Lessons from the Great East Japan Earthquake and Prospects for the Future~が開催され、東北大学災害科学国際研究所からは、今村文彦所長（災害リスク研究部門）、栗山進一教授（災害医学研究部門）、泉貴子准教授（地域・都市再生研究部門）、マリ・エリザベス助教（人間・社会対応研究部門）、寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）が参加しました。このシンポジウムは、在シアトル日本国総領事館とUW-TU:AOS Thrust-3 Natural Disaster and Hazardが主催として実施し、AOSの活動としては2017年11月の第1回目のワークショップに続き、第2回目となります。また、指定国立大学での世界トップクラス研究である災害科学研究拠点における国際連携研究活動の一環でもあり、実践的防災学の展開の一步になりました。今回は大学関係者だけでなく、仙台市から水谷哲也氏（建設局下水道事業部）、村口恭之氏（震災復興室）、さらに松崎秀樹氏（前浦安市長）、加藤篤氏（日本トイレ研究所）などが参加し、話題提供をされました。当日は83名のシアトル市周辺の行政・公的機関、マスコミ、大学関係者等が参加しました。

AOSは、2017年4月のワシントン大学と東北大学との大学間協定に合わせて開設され、本学としては5番目となる海外代表事務所です。AOSは、大学間の共同研究を促進し、米国における本学のゲートウェーとして様々な分野の研究者や行政・企業等の実務者を交えたワークショップ・シンポジウム等を開催することにより、新たな交流・連携のマッチングの場として、国際的共同研究体制と産学連携の推進を図る目的で設置されました。今回のシンポジウムでは、主に「Sharing of Experience and Lessons from the Great East Japan Earthquake」、「Medical and Public Health Issues」、「Specific Initiatives: Current and Future」の3つのセッションにおいて、それぞれ発表と質疑応答が行われました。当研究所からの登壇者の発表内容は以下の通りです。

今村 文彦：The 2011 Great East Japan Earthquake: What Happened in Tohoku?

栗山 進一：Challenge of Public Health to Disaster: Using Public Health Approach and Artificial Intelligence Techniques

泉 貴子：Towards the Implementation of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction: Expectation and Role of Academia and its Initiatives

マリ・エリザベス：Post-Disaster Housing Recovery in Japan and Key Issues after the GEJE

寅屋敷 哲也：Emergency Toilet Management from a Viewpoint of Business Continuity

セッション後の総合討論では、今後の取組の展望として、日本の災害経験や教訓をどのようにシアトルの公的機関や企業、一般市民等に伝え、いかに継続して交流の場を提供できるのか等、ご要望・ご意見をいただき、参加されたシアトルの方の強い防災への関心がうかがえました。

また、シンポジウムの前日の22日には、シアトル市危機管理局および公共事業局と、日本からの参加メンバーである当研究所の教員、仙台市、浦安市、日本トイレ研究所との意見交換を行い、さらに、23日のシンポジウム後に総領事館公邸にて開催されたレセプションにおいてもシンポジウムに参加したさまざまな組織の方と、今後の関係強化に向けた親睦を深めました。レセプションでは、当研究所から減災風呂敷（当研究所 保田真理プロジェクト講師作成）を山田洋一郎総領事にプレゼントさせていただき、日本での伝統的な防災文化の大切さを披露させていただきました。

文責：今村 文彦（災害リスク研究部門）、寅屋敷 哲也（人間・社会対応研究部門）

（次頁へつづく）



講演（今村教授）



講演（栗山教授）



講演（泉准教授）



講演（マリ助教）



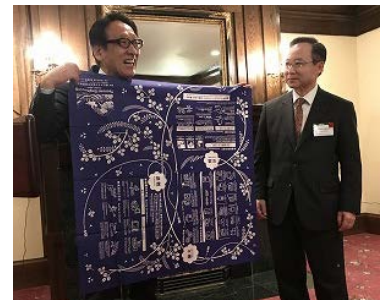
講演（寅屋敷助教）



シンポジウム会場の様子



日本からのシンポジウム参加者



総領事へのプレゼント